

平成 29 年 12 月 31 日
バンコク産業情報センター
鈴木 太郎

ロボカップアジアパシフィック大会と国際展示場について
一般調査報告書

愛知県では、現在、中部国際空港の隣接する場所に、2019 年秋の完成を目指し、国際展示場を建設しています。その管理については、P F I に基づく民間事業者による運営を行うこととしており、その優先交渉権者を本年 12 月に選定しました。

60,000 m²の規模の展示場はこの地域にこれまでなく、この展示場では、空港に隣接する特徴を活かし、新たな産業交流の拠点として整備するもので、開業に向け、国内外の様々な展示会やイベントの誘致や受付がすでに始まっています。

2020 年に、この展示場で予定されているワールドロボットサミット (W R S) の開催にあわせ、ロボカップアジアパシフィック (R C A P) 大会の同時開催も計画されており、第 1 回となる R C A P 大会が、タイのバンコクで開催されましたので、その様子とともに、タイの国際展示場について報告したいと思います。

R C A P 大会は、B T S (高架鉄道) のバンナー駅に隣接した B I T E C (Bangkok International Trade and Exhibition Centre) という、約 70,000 m²の大規模展示場の一部を使って開催されました。この展示場は、スワンナプーム国際空港に近く、また、バンコク
の中心から B T S で約 30 分の距離にあることから、国際的な産業展から消費者向けの展示会まで様々なイベントが開催されています。

(オープニングの様子)

開催期間は 12 月 12 日～18 日で、20 か国以上の国々から約 200 チームが参加しました。タイではロボットを次世代の重要産業として位置付けており、オープニングにはピチエート
科学技術大臣も出席し式典が行われました。



競技では、小学生や中学生がジュニアカテゴリーのサッカー競技を行っており、熱心にプログラムを修正しながら取り組んでいたほか、メジャーのカテゴリーでは、人型ロボットによるサッカー競技が行われました。ロボット自身が、ボールの位置やゴールを認識した上でシュートしたり、転んでもロボット自身で立ち上がるなど、子供から大人まで楽しめる内容であり、ロボットへの興味が高まる内容でした。

(人型ロボットによるサッカー)

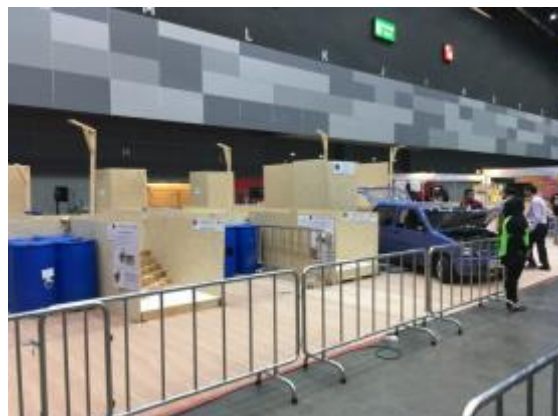


(ジュニアリーグの様子)



(ロボカップレスキュー)

その他、災害現場をイメージした障害物を乗り越えゴールを目指す「ロボカップレスキュー」、家の中におけるサービスロボット競技の「ロボカップ@ホーム」などの競技も行われており、今回のRCAPの視察を通じ、ロボットが私たちの生活に今後さらに身近なものとなっていくことが感じられました。



愛知県はロボット製造業の分野で、製造品出荷額、事業所数、従業員数とも全国1位となっており、ロボットメーカーや研究施設も多数存在しています。

2017年には、ロボカップが愛知県・名古屋市で開催され、42の国や地域から2,500人を超える研究者や学生などの参加者に加え、130,000人も一般来場者があり、成功裏に終えることが出来ました。2018年には、ワールドロボットサミットのプレ大会が東京で開催される計画で、愛知県で2020年に開催が予定されているワールドロボットサミットに向けて準備が進んでいます。

こうした世界的なイベントの開催を通じて、愛知県のロボット産業がさらに活性化していくことが期待されます。

さて、タイへは年間 3,000 万人以上の外国人観光客が訪れており、観光産業はタイの重要産業の一つとなっていますが、タイ政府は、観光との相乗効果が高い展示会や国際会議の誘致を推進するための専門組織として T C E B (Thailand Convention Exhibition Bureau) を 2004 年に立ち上げました。

バンコク周辺には、R C A P 大会の会場となった B I T E C 以外に、Q S N C C (Queen Sirikit National Convention Center) や I M P A C T (Impact Muangthong Thai) といった大型の国際展示施設があり、これら施設の運営は民間企業が行っています。

T C E B では、展示会等を誘致するため、補助金制度の創設やターゲット国や地域での P R 活動を行っており、こうした展示施設運営事業者等とも連携し、国内外のイベントを誘致しています。

(バンコク周辺の大型展示場)

会場名	B I T E C	Q S N C C	I M P A C T
所 有	Bhiraj Buri Group (大手デベロッパー)	タイ財務省	Bangkok Land Public Co.,Ltd (大手デベロッパー)
運 営	Bitec Management Co.,Ltd (同傘下企業)	NCCManagement and Development Co.,Ltd (タイ財閥 TCC グループ)	Impact Exhibition Management Co.,Ltd (同傘下企業)
設置年	1997 年	1991 年	1999 年
面 積	70,000 m ²	23,436 m ²	160,404 m ²
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空港や都内から近く多彩なイベント開催が可能 ・ 海外の展示施設とも連携し誘致活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営会社はニュージーランドの展示施設運営の運営受託実績がある ・ オーガナイザーとして自らイベントも開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺にホテル等があり滞在型のイベント対応が可能 ・ 大学と連携し M I C E 人材を育成

新しくできる愛知県国際展示場は、空港に隣接していることに加え、名古屋駅から鉄道で約 30 分の距離と、便利なロケーションとなっています。また、空港島内には、既存のホテルに加え、新たなホテル建設計画や、ボーイング 787 の初号機を展示する複合商業施設の建設も進められています。

また、展示場の運営を行う優先交渉権者に選ばれたグループの代表企業である GL events 社は、世界約 40 か所の展示施設等の運営を行うとともに、オリンピックやサッカーワールドカップなど世界的イベントの企画の実績があり、愛知県での国際的なイベント誘致や新たな展示会の創出が期待されます。

(愛知県国際展示場イメージ)



(愛知県国際展示場イメージ)



展示場の周辺にも、イオンモールなどの商業施設やホテルがあり、また、展示場や空港のある常滑市は、焼き物で有名な観光地なため、国内外から来場された方が楽しんで滞在できる環境にあります。

この展示場建設をきっかけに、愛知県、さらには中部へ国内外から多くの方々が集まり、この地域の発展につながることを期待されます。

当センターでは、引き続き、本県施策と関連する現地情報を発信してまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。
本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。